

日本山岳会 越後支部報

第 33 号

令和4年2月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 桐生 恒治

新潟県見附市学校町1-9-19

TEL・FAX 0258-62-0148

広報委員長 佐藤 高晴

私の一枚

春の粟ヶ岳

越後平野の東に粟ヶ岳の鋭鋒は天を突き、存在感を際立たせている。僕が最初に登ったのは、昭和41年6月であった。ただただ暑かった、二度と登りたくないという記憶しかなかった。しかし近年、地元加茂の山友と登る機会が何度かあり、その四季のすばらしさにすっかり魅了されてしまった。こんな光景にも出会うことができた。水源地から登り、山頂からの帰り、先行する友が中峰に登っている時の一枚である。

撮影者 遠藤 俊一



支部活動を温故知新から創新へ

支部長 桐生 恒治

支部運営スローガンとして「温故知新」を掲げ、越後支部の伝統や行事の内容を理解し、継承発展を目指してきました。しかし、この2年間コロナ禍で支部活動が自粛に追い込まれ、殆どの計画が中止や延期を余儀なくされました。特に多数数での山行などハード的行事は、世間的風評もあり実施できず、ソフト的な事業を推進してきました。その一環で越後支部の偉大な先人として、高頭仁兵衛、藤島玄、小野健の三岳人を取り上げ紹介したいと考えました。高頭仁兵衛翁は、「2020写真で見える高頭祭のあゆみ」を追加編集し2020年12月に発行、支部事業で寿像修復募金と工事を実施しました。藤島玄初代支部長の「飯豊黎明の人 藤島玄展」は、支部会員の藤島蔵書メンバーが開催しました。支部行事でありませんが、小野健支部名誉会員の「梅海新道開通50周年記念 大縦走路の軌跡 特別展」は、鶴本支部会員が中心となり糸魚川地域を巻き込んで計画実施したことなど、その行動力と実行力に敬意を表します。

会の2021年特別事業補助金事業「越後YOUTH育成3ヶ年計画」で認められた登山セミナーや糸魚川ジオパーク子供登山教室は、昨年7月末頃から第5波の急速な感染拡大で中止となり、楽しみにしていた多くの方々を失望させてしまいました。今までの支部活動を「温故知新」で進めて来ましたが、今後は「知新」を「創新」に切り換えて、従来事業と共に新規行事も創出した活動で融和させたいと考えます。現在全国山岳古道調査の一環で、越後古道プロジェクトを進めており、今後本格的な踏査山行を開始しますが体力・気力の許す範囲で参加をお願いします。子供登山教室は、4年前に糸魚川で開始してノーハウを得ており、今後は中越や下越でも展開し将来を担う子供達の育成に貢献できればと思います。弥彦・国上エリアのプロジェクトは、「持続可能な利用を促進」を考慮し支部自然保護委員会に移行します。従来のパトロールや清掃登山を進化させ、県内模範となる運動へ展開したいと考えます。YOUTH育成事業も、昨年から本部YOUTHと繋がりもでき始めており、越後支部の行事や他支部との交流を含め積極的な連携を盛り上げたいと思います。

今年度支部事業で、新潟県職員互助会の地域助成金事業「弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト」が採択され、実施したことを本紙前号で紹介しました。しかし、日本山岳会支部事業委員

今年度支部事業で、新潟県職員互助会の地域助成金事業「弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト」が採択され、実施したことを本紙前号で紹介しました。しかし、日本山岳会支部事業委員

「新シリーズ」 地域の山紹介

越後は縦に長く有名な山が多くありません。一方、ガイドブックに紹介もされない高くもなく無名だが地元の岳人達に愛され綿々と登り続けられている山もあります。この様な地域の山々を取りあげて支部会員に広く知って頂き、よりレパートリーを広げて山登りを楽しんで頂きたく、本シリーズを立ち上げました。1回目は下越より始めます。

毛石山 (七九三M)

滝沢 信子

五泉市川内山塊の一つ毛石山がある。登山口は、五泉市村松の上杉集落を過ぎ、チャレンジランド手前で門原方面の道路に

曲がると直ぐ左側にあり、毛石山の看板がある。駐車場は無いが、登山口前の少し広くなった草地があり、そこに数台止められる。歩き始めは、水力発電用の導水路（水路の上に金網がかかっている）の上を歩く。川を渡り、引き続きコンクリート板を敷いた導水路に沿ってしばらく歩くとやがて右手に登山口の標識が見える。ここから登山道の始まりで杉林の中を進む。途中沢沿いを遡行する。沢には、山ビルが生息するのでヒルの生息時期は、特に注意しながら進む。

やがて広くなっている鉾山跡に着く。当時ここで採掘した鉾物を選別したらしく草木が生えていない。更に、山腹をへつる様に進みジクザクした鉾山跡の斜面を登る。振り返ると権現山が見える。尾根に出ると小さな祠がある山の神に着く。目の前には越後白山からの「田村線」と呼ばれる登山道を見る事が出来る。

ここからは、右手に白山を見ながら、西側を巻く道を進む。片傾斜の登山道が続くので注意しながら歩く。尾根に到着、橋立山の神である。目の前には、



目的の毛石山が見える。案内板に沿って、巻道を進むとやがて歩き易い広い道になる。更に進むと急登になり、目指す山頂は、直ぐそこ。4月中頃、登山道両脇に岩うちわが満開になり一面ピンクに被われる。山頂は、川内の山々のパノラマ、銀次郎、銀太郎、五剣谷岳、青里岳、矢筈岳まで望める。訪れる人が少ないので山頂で展望を十分楽しめる。



後支部YOUTH委員会も合同で登山できないかとの打診があり、急遽私と知野勇人さんが同行した。

11月20日(土)、JR磐越西線馬下駅で本部メンバー4人(男性1名、女性3名、皆40代)と合流。早速、菅名岳登山口に移動。今回のコースは小山田登山口→丸山尾根→菅名岳→鳴沢峰→五葉尾根→小山田を周回する。09:30小山田からは沢を渡っていきなり「地獄の階段・575段」の看板が出迎える。登り始めのいきなりの階段歩行はキツイ。途中「ラスト230段」の看板がある。ほぼ真ん中切りだがラストにしては中途半端な数字。階段を切り切り広い尾根に出る。丸山尾根は綺麗なブナ林となり緩やかな緩斜面が続く実に気持ちいい。11:50菅名岳山頂。先客10人以上。雪をいただいた飯豊連峰が輝いている。越後平野は全体的に霞み佐渡島や粟島が望めない。山頂でナメコ・ヒラタケ・マイタケ入りのキノコ汁でもてなし。醤油味と中華スープ味の2鍋を作り、味の違いを楽しむ。自慢じゃないが夫々うまい。キノコ汁を完食し12:50下山開始。笹の尾根は起伏が少なく歩きやすくやがて鳴沢峰通過。五葉尾根は丸山尾根よりも傾斜があるが登山道はしっかりしている。15:00小山田登山口の駐車場到着。1日目の登山終了。

本部YOUTHメンバーとの 交流登山(菅名岳・弥彦山)

越後支部YOUTH委員長

玉木大二朗

日本山岳会本部YOUTHクラブのメンバーが菅名岳と弥彦山に登山するので、越

11月21日(日)、新潟市西区寺尾で本部メンバーと合流。弥彦山へと向かう。弥彦神社は菊祭り開催中で菊の展示品を見学しながら表参道を通る。弥彦神社で参拝後、



08:30 登山開始。過去の弥彦山での遭難事例や松明登山祭を説明しながら、のんびりと歩く。10:05 山頂到着。佐渡島、越後三山、尾瀬燧ヶ岳も見える。次に大平園地を回り、高頭翁寿像碑前で記念撮影する。往路を戻り12:10 無事下山。新潟市内まで本部メンバーを送る。本部メンバーは、次回の新潟遠征を令和4年の春に、国上山→弥彦山→角田山の西蒲三山縦走を企画したい、高頭祭に参加して越後支部会員との交流を楽しみたいとの言葉を残し解散した。

弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト

山行委員長 渡辺 茂

第2回活動報告

- ・日時 令和3年9月25日(土)
- ・場所 八枚沢登山口→妻戸尾根→弥彦山→能登見平→八枚沢登山口
- ・参加者 19名

今回の活動は八枚沢ルートの危険箇所や案内看板等の調査および登山道にはみ出た草や枝、枯れ木の除去活動として実施しました。このルートは雪割草が咲く頃には多くの登山者で賑わう人気のコース、階段が多く、石がゴロゴロと歩きにくい為、急斜面にはザイルを設置、また、雪割草群生地には立入り禁止のロープも設置しました。また、階段が崩れないよう鉄の杭が打たれた場所には躓かないよう注意喚起用ピンクのマーキングテープを縛り付けました。安全登山を確保するために登山道沿いにはみ出た枝や枯れ木を除去し登山道は歩きやすくなりました。妻戸山分岐に設置された休憩場所と分かるようにしました。

山頂の階段脇の松の枯れ木も除去しスッキリした参道に生まれ変わりました。能登見平からは枯れ枝の除去をしながら八枚沢登山口に降り、今回のプロジェクト作業を終えることが出来ました。

第3回活動報告

- ・日時 令和3年10月30日(土)
- ・場所 表参道登山口→弥彦山9合目→大平園地(往復)
- ・参加者 22名

今回は最後となる3回目の活動は土砂崩



れによる入山中止が解除された表参道から弥彦山9合目を經由し、大平園地までの整備中の登山道の視察を兼ね、危険箇所の点検と外来植物の観察をしながらゴミ拾いを行いました。点検活動では、登山道沿いに張られたロープの緩み、杭の破損、読めない看板の除去、立入り禁止区域の確認、ゴミ拾いなどを行いました。登山道の整備は9合目から行われ、現在は6合目付近まで整備され、土砂崩れ現場も整備され草が生え、間もなく緑のジュウタンに様変わりの様相でした。大平園地ではタバコの吸い殻が目立つことから、登山マナーよりも観光客のモラルアップ対策を講ずる必要性を強く感じました。また、弥彦山にも外来植物、特にフランス菊が奥の院や大平園地で群生していることが確認報告されました。こ

会津街道諏訪峠

多田 政雄

古道調査

これらの外来植物の除去については国立公園、国定公園では勝手に採ることができないため頭の痛い問題となっており、山頂付近は間もなくフランス菊の群生地と変化するように思えました。これまでの活動には延べ88名の方から参加いただいたことに感謝申し上げます。

阿賀町行地と津川間を新発田藩が参勤交代時に通り殿様街道と言う諏訪峠で、十月三日に初めて交差登山で古道調査を行った。ピストンで登山口に戻るより峠越えして行く方がより効果的であり時間的制約から今後の調査に重要な登山方法になる。注意する事は山行途中で車の鍵交換が必要があり、峠が両側から同じ時間とは限らない、危険な場所は避けて確り決める、鍵に車名と色と番号を書いた荷札を付け交換相手も決め保険も確認する、下山後の車置き場所と合流場所決めておく、これらをチェックして行地側は佐久間さん等七人と津川側は多田等六人で八時過ぎに出発する。今回は津川側からの報告をする。

駐車場から各自地図アプリをスタートし追分道標馬頭観音で最初の地点記録し、以後各所で記録しながら進む。石畳の道を通りどうしん坂で石畳を撮影記録し、柳新田集落玄関前を通り一里塚で休憩する。往時



の苦勞を偲びながら林道を登り、峠に着くと行地隊は到着しており半時間近くの差が出た。車の鍵と情報を交換、昼食後にそれぞれ出発、大ブナや中の茶屋跡を通り行地の一里塚に着く。この行地の一里塚と先ほどの柳新田側の一里塚は、左右で一对の土腕を伏せた形の土盛が完全な形状で残り、貴重で一番の見所と思われる、写真を撮り記録する。宿場であった行地集落に着くが過疎の為か静かである。駐車場は直ぐわかり乗り換えて新谷経由で三川道の駅の合流場所へ向かう。車の鍵を再交換し、地図アプリ実習と交差登山に依る古道調査を大きな事故もなく終了し次回に生かせる良い経験となった。

(道中スズメ蜂の巣一カ所あり速やかに通過する。山蛭には何人かが吸われる。)

山行委員会 黄葉の御神楽岳登山

石山 政雄

コロナ禍で山行行事が全て中止になる中、久しぶりに越後支部行事(新潟山岳協会合同企画)として、10月17日黄葉真っ盛りの御神楽岳の山行が開催された。当日は雨にも関わらず県内各地から25名もの大勢の参加者が集まった。

室谷登山口にて、班ごとに点呼を取り、越後支部後藤副支部長から開会の挨拶を頂いた後、7時に3班に分かれて出発した。御神楽岳の天気予報は午前小雨、午後曇りと回復傾向とのことであったが、登山道は下草が伸びて濡れている上に路面のぬかるみがひどく、最初から雨具を着けての歩行となった。

登山道には沢を渡らなければならない場所が数箇所あったが、昨夜来の雨で水嵩は増えているものの支障なく通過することができた。杉林を抜けるとやがて雑木林となり、大森展望台の広い休み場に到着した。視界が良ければこの展望台から稜線が見えるはずだが、当日は濃いガスで展望することができなかった。雨乞峰に近づくとつれづれの原生林が多くなり、素晴らしい木々の黄葉を見ることができた。しかし、雨乞峰付近では雨粒が冷たく風もあったため体感温度が下がり、体調を崩す人も出て先行きが危ぶまれた。

11時過ぎに山頂に着いたころには、雨は



藤島蔵書研究会 「研究報告会」の報告

藤島蔵書研究会代表 平田 大六

2021年11月18日、藤島蔵書研究会の第4回研究報告会を開催したので概要を報告します。会場は、藤島蔵書が置かれている関川村の川北ふれあい自然の家で、旧川北小学校の跡地にある建物です。

藤島蔵書は、初代支部長をされた藤島玄さんが1988年に没後、遺族の方々から関川村へ寄贈されたものです。今世紀に入って、越後支部の有志の方々が、点検分類作業を重ねて開架に至りました。

研究会員登録者は、関川村教育委員会から鍵を借りて入室閲覧できます。現在、100名近い会員数で、月1回、有志の方々が、この図書室に集まり、研究・会合を重ねています。

研究報告会は、数年前から毎年開催してきたもので、会員それぞれの研究成果の発表会です。第4回目の本年は、会員参加36名、一般参加7名でした。来賓の祝辞は、関川村教育長、新潟県山岳協会長、桐生恒治支部長で、それぞれ激励いただきました。研究報告者は4名で、概要を紹介いたします。

① 遠藤家之進正和「藤島玄の足跡」。蔵書開架室の壁面に貼られている膨大な「藤島玄年表」は、遠藤さんの力作で、その抜粋を資料にされた解説でした。「新潟から見える山々のすべてを登る」

ほぼ止んでいたが、更に濃いガスとなり視界はほとんど無く、御神楽岳を知る人からは好天なら山頂から飯豊連峰、魚沼三山、川内山塊など360度の眺望を楽しめたのにと残念がる声が聞こえてきた。山頂で昼食をとる予定であったが、寒さで下山を希望する人もいて記念写真を撮った後早々と下山し、霧雨の中、風の無い大森展望台で昼食をとった。

下山道は更にぬかるみがひどくなり、足元は泥んこ状態となり尻もちをつく人もいたが、久しぶりに会った岳友と話が弾むなど有意義な山行であった。14時に全員無事登山口に到着し、県山協遠藤副会長の閉会挨拶後解散となった。



② 藤島少年のエピソードからはじめられました。

② 高辻謙輔「寸描・藤島玄」。高辻さんは、深田久弥研究の全国的な一人者の一人で、藤島／深田の出会いなどについても話されました。配付資料の飯豊登山の写真は、「越後の山旅」などに載っています。

③ 田邊信幸「藤島玄のペンネーム」。田邊さんの労作です。藤島さんの本名は「源太郎」であることは、一般的に知られているところです。「玄山人」などもあり、数百の文献に目を通され、集計されたものです。このため田邊さんは、たびたび蔵書図書室を訪れられました。建物の玄関駐車場に、ひんばんに「田邊車」を見かけました。

④ 佐久間雅義「飯豊連峰・赤谷く川入口縦走」。藤島蔵書分類手法の創始者である佐久間さんは、藤島さんの、数多い山岳・山行写真や、メモ類なども、克明に点検をされていました。そのなかから、本題に関する写真や文献を抽出され、画像に写して紹介されました。テーマの縦走コースは、越後側に飯豊連峰への到達ルートがない時代、「飯豊山への登拝路」として、飯豊川を溯行して連峰南部主稜へ斜上する「古典ルート」です。現存していません。

フォト・スケッチ同好会

からのお知らせ

遠藤 俊一

この度、役員会の指名を受けて本間会長から交代して遠藤俊一が会長を引き継ぎました。私は山登りを始めたころは、山頂での記念写真だけで満足していました。登る折々で目にする素晴らしい景観は心のなかの記憶として残っているだけでした。しかし、山登りに夢中になるうちに、これを映像として残しておきたいと一眼レフカメラを購入し、シャッターを切るようになりました。登山中に出会う木々や可憐な高山植物、流れる霧や雲そして光に魅せられて、もう50数年になってしまいました。皆様と美しい自然の出会いを求めて、山行をしていきたいと思っています。よろしくお願います。

すでにホームページに掲載しましたが、左のように同好会山行を実施します。参加される方は遠藤俊一宛てに至急連絡ください。

1. 実施日時 令和4年2月27日(日) 集合9時
2. 集合場所 阿賀町役場駐車場(阿賀町津川580番地:025492311)
3. 行先 西山日光寺 出角山(大黒杉幹回り5.4m)
4. 行程 役場駐車場9:10 9:30 払川集落9:50 11:10 西山日光寺11:40 12:30 出角山(485m) 13:00 13:40 西山日光寺13:50 15:00 払川 15:30 役場駐車場(解散)
5. 携行品 ワカンorスノウシュー、ストック、昼食、行動食、冬山装備

フォト・スケッチ同好会会員の再登録のお願い

会員名簿を再作成します。左記の事項を申込先へご連絡ください。会員の方へは同好会行事を直接ご案内します。

1. 氏名
 2. 連絡先 (e-mail (優先)、住所 (郵送希望)、電話番号 (携帯優先))
 3. 緊急連絡先の氏名と電話番号
- 申込先 遠藤 俊一
住所 〒950 202 新潟市西区青山1-13-28
e-mail endo4181@matp.ne.jp
- 3月31日までにご連絡ください。

越後スノートレッキング同好会・山行委員会 残雪期登山企画のご案内

・山名 北岳1472m (魚沼市) 只見町と魚沼市の県境にある鬼が面山の隣のピーク

・日時 2022年3月13日(日)
申込締切り 2022年2月28日(月)
期日までに下記に電話またはメールで連絡ください。

申込先 渡辺 茂
携帯電話 090-2537-3548
Eメール isikorob@mb.tp.ne.jp

・山名 日向倉山1430.6m & 未丈ヶ岳1552.8m (魚沼市) 秘境銀山平の知られざる山

【Aコース・日帰り、日向倉山】
・日時 2022年4月21日(木)
・日時 2022年4月21日(木)

【Bコース・泊2日、日向倉山&未丈ヶ岳】
・日時 2022年4月21日(木) ~ 22日(金)
申込締切り 2022年4月8日(金)

・期日までに下記に電話またはメールで連絡ください。

申込先 松井 潤次
携帯電話 090-4621-1825
Eメール mahojya@seagreen.ocn.ne.jp

猪熊隆之氏気象セミナー

開催のお知らせ

事業委員会



象セミナーを開催します。

日時：令和4年6月4日(土) 1時30分

会場：黒崎市民会館ホール1000名募集

野外講習：令和4年6月5日(日)

新潟市秋葉区 八幡山遺跡周辺

20名募集

資料代：1日 500円

コロナの感染防止で屋内は定員の半分以下で屋外は20名で開催します。屋内講習は支部会員を優先して募集します。

申し込み先 95012022

新潟市西区小針1-21-4

電話・FAX 025126514417

小山一夫迄

ハガキ・ファクスで氏名・住所明記で、5月15日迄に

高頭仁兵衛翁寿像修復募金の追加事業説明 高頭仁兵衛翁寿像修復委員会2021

代表 桐生 恒治

支部報前号で高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金について、実施状況の仮報告をさせていただきます。お陰様で募金目標を大きく上回り、本来の寿像碑修復工事も全て完了し、さらに周辺整備で大平園地登山道入口に案内看板新設などを行いました。その後募金者へ返礼品とお礼状を送り一区切りとしましたが、現在30万円弱の残金があり、今後の使用用途について意見を聞き検討して来ました。

寿像設置場所の大平園地は、景観や展望が良く一般来訪者も非常に多く来山します。寿像碑に高頭翁リレーフと武田久吉第6代会長の碑文が嵌め込まれていますが、多くの方々が気付き目にして、その内容の意味や寿像碑建立の経緯歴史について、理解されていないとの懸念を持っています。高頭仁兵衛は、日本近代登山を先導し普及啓蒙した日本山岳会創設メンバーで活躍した人物であり、その功績を讃えて越後支部が建立した経緯や歴史を知ってもらうため、その説明看板を設置して広く紹介した方がよいとの方針に至りました。

昨年12月11日越後支部役員会で説明して、賛同が得られて進めることになりました。寿像碑説明看板の製作設置にあたり、説明文起草、設置費見積、関連団体への設置許可申請、今年7月25日第65回高頭祭で

除幕式を行うなどの予定で進めたいと思います。

【高頭仁兵衛翁寿像碑修復工事募金の訂正とお詫び】

前号の越後支部報32号(令和3年10月15日発行)3ページに掲載した『高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金者ご芳名簿』で、一部募金者名表示で間違いがありました。

次の通り訂正させていただきます心よりお詫び申し上げます。

1. 「日本山岳会四国支部」様は、「尾野益大(四国支部長)」様個人としてのご寄付でした。
2. 「北原孝治」様(北原孝浩様の間違い)は、「日本山岳会山梨支部」様としてのご寄付でした。

事務局からのお知らせ

●支部会員動向(2021年4月20日以降)

・新入会員

齋藤 桃子(A0374) 5月20日

脇屋 雄介(16817) 9月20日

・物故者

成海 修(14797) 9月22日

笹川 和男(5052) 9月23日

高橋 庄一(5352) 10月31日

・退会者

松坂 良一(6074) 12月7日

河村 勝(5802) 12月7日

●支部会員総数(2021年12月30日現在)

会員数168名 会友5名

編集後記

今号から、「地域の山」シリーズを始めました。広報委員会の役目は、支部内の親睦と安全登山の普及ではないかと考えています。いろいろの報告は、支部活動やいろいろの方の活動を知ることが出来て親睦に役立ちますが、支部外の一般の登山愛好者や、支部内にも、それだけでは物足りない方もおられるように思います。広報委員会では、山やの原点である身近な山をもう一度見直してみよう、支部の内外の方に、それによって登山の魅力を再発見してもらえないか、そのようなことが支部の活性化、会員拡大にも繋がるのではないかと、等の議論も行いました。支部報には、今までもいろいろなシリーズ物を掲載してきましたが、そのような議論の中から、特に、「地域の山」に注目したシリーズ企画を行うことにしました。地域を巡って順に掲載していく予定です。これだけ見ればその山に行ける、という完全なガイドにはなりません、その山の魅力を十分に伝えられるように出来れば、と考えています。

紙面作成にあたり、ご協力を頂いた皆様には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

(佐藤高晴)

